

## 自民党の「統一教会汚染」

写真は朝日 20 日朝刊 1 面。旧統一協会の友好団体が今年の参院選や昨年の衆院選の際、自民党の国会議員に対し、憲法改正や家庭教育支援法の制定などに賛同するよう明記した「推薦確認書」を提示し、署名を求めていることが分かった。選挙で支援する見返りに教団側が掲げる政策への取り組みを求めたもので、「政策協定」ともいえる内容だ。文書に署名した議員もいた。事態は深刻である。



毎日 19 日夕刊のコラムニスト中森明夫「ニッポンの発言」は、ジャーナリスト鈴木エイト『自民党の統一教会汚染／追跡 3000 日』を紹介して、旧統一教会と政治について問題を投げかけているので、抜粋して紹介する。

「信者の人権を無視してその人生を奪う教団も問題だが、その信者を私利私欲のために使い捨てにする政治家は更に問題視されるべきだ。私がカルト教団による人権侵害だけでなく、政治家の問題を追及するモチベーションは此处にある」（同書）

なるほど政治家なのだ。岸田文雄首相は、自民党の国会議員が今後、社会的に問題のある団体との関係を断つ、と宣言した。「社会的に問題」とは？ 霊感商法や法外な献金による収奪、信者 2 世の子どもらへの虐待などの事例が報じられている。

これまで警察は一体何をやってきたのか？ 警察機構をつかさどる前国家公安委員長が、教団の関連団体のイベントで実行委員長を務めたと報じられ、いや、名前を貸しただけだと釈明。直後にイベントの壇上で旗を持ち、にこやかに笑うその姿が暴露され、仰天した。女性教祖に感謝をささげ、「安倍首相にも早速ご報告します！」と声高にスピーチして信者らの拍手喝采を浴びたのが、なんと三権の長たる衆院議長で、追及されると一転ダンマリ、記者会見にも応じない。教団の名称変更を承認した文部科学省の元大臣が、関連団体の集会で推薦状をもらってほほえみ、選挙前に新人候補を連れて教団施設にあいさつに参上したのが自民党の政調会長なのだ。元副防衛相は「マザームーン」と呼び、女性教祖をたたえて花束をささげ、円安大不況で国民が苦しんでいるこの今、極度の健忘症の人物が経済再生担当相を務めている（自らの記憶を“再生、するほうが先決では？）。信じられない。まるで悪夢のようなディストピア小説の世界だ。

家庭を破壊する宗教が、家庭を冠する教団名を掲げ、家庭を復古する法律を推進する、という冗談のような矛盾。さらにはタカ派政治家や右派メディアが、日本国民から莫大な献金を収奪し、韓国本部へと貢ぐ教団にかしずく、というグロテスクさ。NHK スペシャルに出演した一橋大の中北浩爾教授（政治学）は「ナショナリストの国民を大切にしなければいけないはずの保守が、日本の庶民を経済的に追い詰める旧統一教会と深い関係を持っていた。深刻で恥ずべき矛盾だ」と喝破した。正論である。

(2022年10月23日)